

地冷事業と CN 都市ガスとによる脱炭素の裾野拡大に向けて

— 江東区新砂三丁目地域冷暖房事業 —

東京下水道エネルギー株式会社(TSE)は、2021年7月1日より江東区新砂三丁目地域において、新たにガス使用量の全量(年間約84万 m^3)*¹を東京ガス株式会社(以下「東京ガス」)の協力を得て、カーボンニュートラル都市ガス(以下「CN都市ガス」)に切り替え、脱炭素な地域冷暖房事業への取組を開始します。本取組により年間約1810トンのCO₂削減の効果があります。この結果、代々木公園の面積の約3.8倍*²に相当する「森林創出」効果を見込んでいます。

当社は2001年11月より、砂町水再生センターの下水処理水及び下水汚泥焼却廃熱(洗煙水)を熱源とし、地域の医療・福祉施設等へ24時間365日、館内及び居室への空調、入浴用などの熱の供給を行ってきました。最大熱負荷に対する供給責任はもとより、下水熱源の変化・変容に対するリスクへの対応、小負荷時におけるより高効率な運転に努めてきました。今回これまでの実績の上に、当社からの熱が生活必需となっているエンドユーザーの皆さまにより質の高い熱の供給を通して、安心して満足のいく生活環境づくり、地域づくりに貢献していきます。

■質の高い地冷への段階的取組(イメージ)



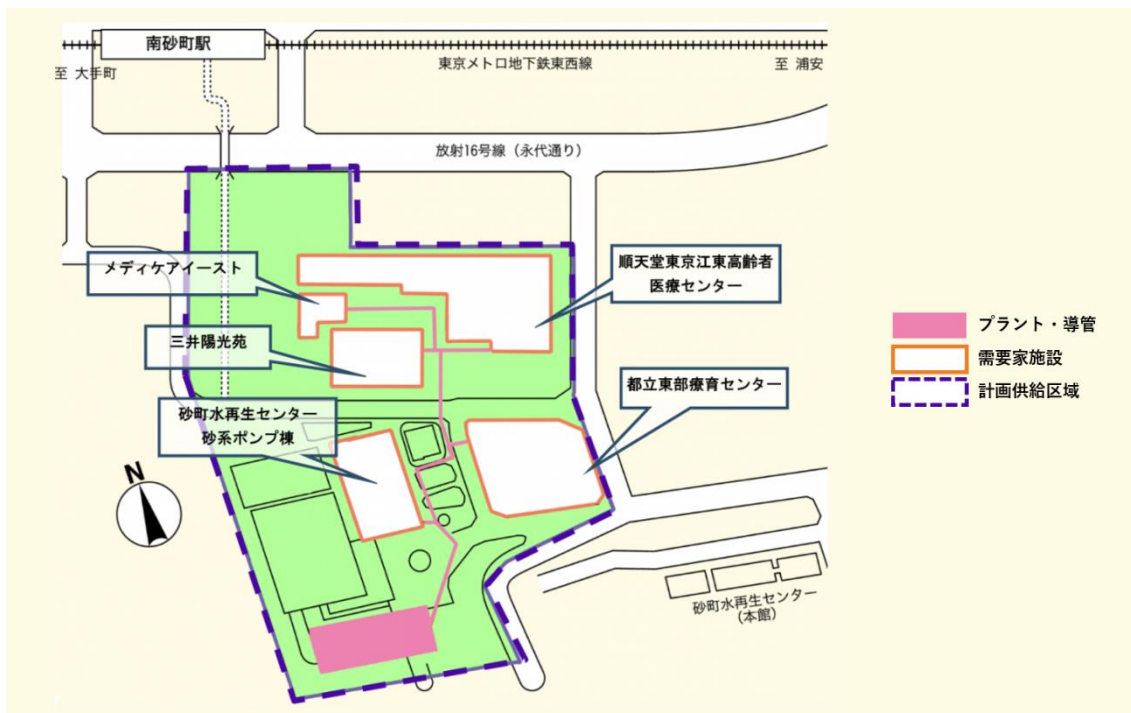
同時に今回の取組は、小規模な当社地冷を通してCN都市ガスがこれまで大規模施設向けに産業用・業務用を中心とした用途に使用されてきたことに加えて、生活必需の場面での利用に供されることから、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、その裾野を拡大し、地冷が地域や熱需要家の皆さまの結節点としての価値を発揮していくことにもつなげていきます。

*1 令和2年度実績値

*2 杉林1haが1年間で吸収するCO₂を約8.8トン、代々木公園の面積を54haとして換算。

【参考】

1. 江東区新砂三丁目供給区域図



2. CN都市ガスとカーボンオフセットについて

CN 都市ガスは、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、CO₂ クレジットでカーボン・オフセットし、燃焼しても地球規模では CO₂ が発生しないとみなす LNG(CNL)を活用したものです。

東京ガスが 2019 年に輸入を開始し、CN 都市ガスとして日本で初めてお客さまに供給を開始しました。なお、対象となる CO₂ クレジットは、信頼性の高い検証機関が世界各地の環境保全プロジェクトにおける CO₂ 削減効果を CO₂ クレジットとして認証したものです。